

通し番号	4710
------	------

分類番号	25-9C-34-01
------	-------------

相模湾沿岸定置網漁業での漁獲魚種の変遷と主要魚種の資源動向
[要約] 相模湾沿岸域で操業されている大型定置網の約30年間分の漁獲データの取りまとめを行い、定置網漁業による漁獲魚種の変遷と、漁獲量の変動、主要魚種の資源量と漁獲量との関係について評価を行い、沿岸域の定置網漁業での漁獲傾向は地域により異なっており、主要漁獲魚種の資源量と各地域の漁獲量との相関についても資源量と相関が高い地域や相関が見られない地域など様々であった。
神奈川県水産技術センター・相模湾試験場 連絡先 0465-23-8531

[背景・ねらい]

神奈川県沿岸漁業の約6割の漁獲量を挙げている定置網漁業の過去と現在の漁獲動向および漁獲される魚と広域資源との関係を明らかにすることを目的とした。

[成果の内容・特徴]

- 1 相模湾沿岸域の大型定置網の漁獲データを西湘地区、湘南地区、三浦地区の3地区に分けて約30年間の漁獲データを取りまとめた結果、西湘地区は安定した漁獲が続いていたが、湘南地区、三浦地区は変動が大きかった(図1)。また、漁獲魚種の構成について約30年間の傾向を見ると、西湘地区はマアジ、サバ類、イワシ類が一定の割合で漁獲され続けていた。一方、湘南地区はイワシ類の割合が高く、三浦地区は2000年代前半まではマイワシ、それ以降はサバ類が大半を占めており、漁獲魚種の構成割合は各地区で大きく異なっていた(図2)。
- 2 各地区の主要漁獲魚種(マアジ、マイワシ、カタクチイワシ、ブリ)の漁獲量と広域資源との関係を比較した結果、ブリについては西湘、湘南、三浦の3地区全てで正の相関が見られた。しかしマアジ、マイワシ、カタクチイワシについては相関が見られた地区と、相関が見られない地区とがあり、地区によって異なる結果が得られた。

[成果の活用面・留意点]

- 1 過去30年間の漁獲データの取りまとめの結果は各地区において、漁獲割合の高い魚種に対応した漁家経営、施設整備等に役立つと考えられる。
- 2 資源量と漁獲量の相関が見られた魚種については、漁況予測等に役立つ資料となる。
- 3 留意点として、今回の分析で各地域における漁獲傾向等が示されたが、沿岸資源の状況については常に把握することが重要で、漁獲される魚種の傾向についても長期的にみると変動が大きいため、今後も漁獲データの蓄積をすることが必要である。

[具体的データ]

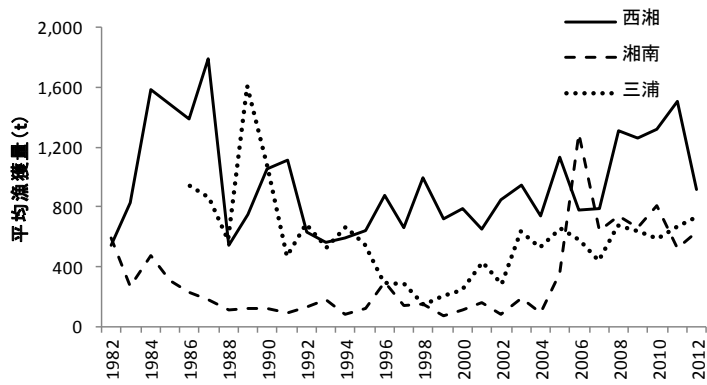


図1：大型定置網1ヶ統あたり平均漁獲量の推移

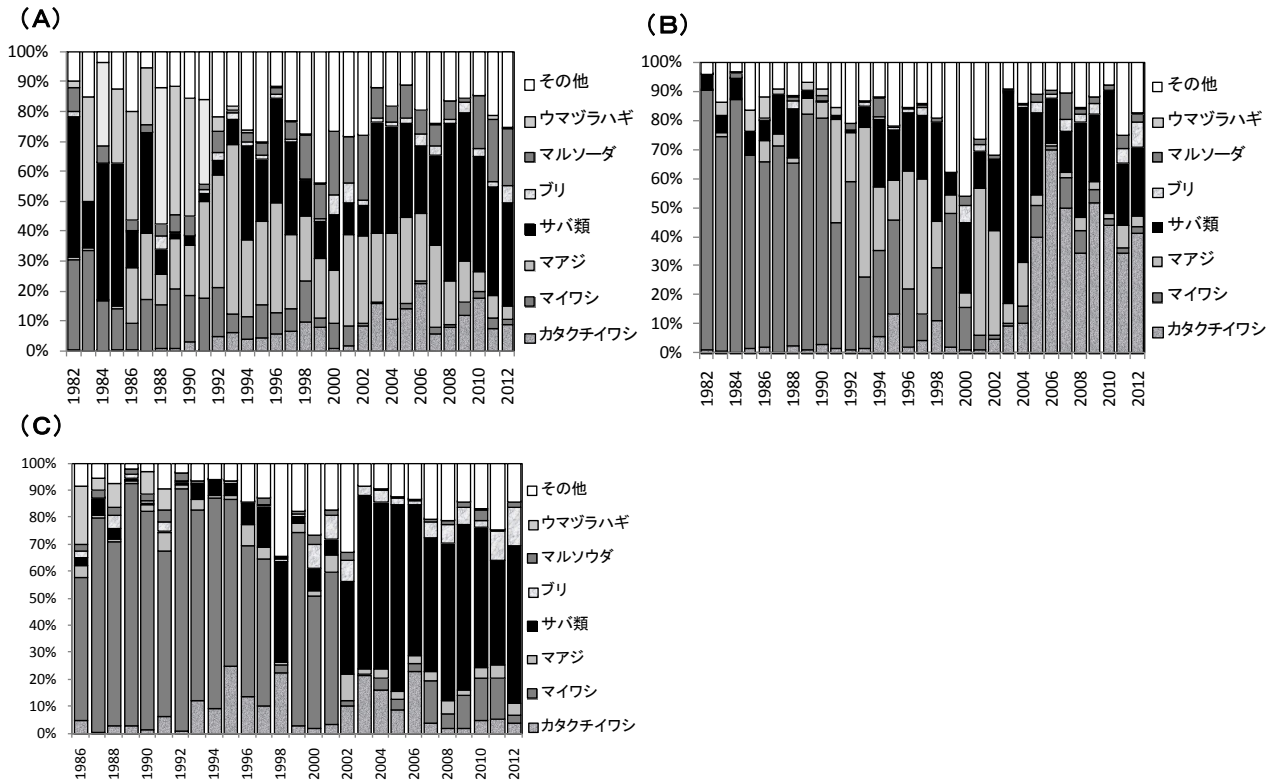


図2：地区別漁獲魚種割合の推移
(A) 西湘地区, (B) 湘南地区, (C) 三浦地区

[資料名] 神奈川県水産技術センター研究報告第7号

[研究課題名] 相模湾沿岸定置網漁業での漁獲魚種の変遷と主要魚種の資源動向

[研究期間] 平成25年度

[研究者担当名] 高村正造